更に Palaeopodocarpites Sôda について

宗田克巳

曩に筆者は本誌を通じて古代槇を略説した。勿論淺學にして分類學乃至新屬の命名として充分な記載を果し得なんだ。そこで多少增補の意向で玆に小論をものすることゝした。

先づ事實の考證は後廻しとして、マキなる類が松柏類に屬することは如何なる學者も認める所で異存はあるまい。併しこれに屬する更に分類上小さい科とか屬とかになると人々に依つて區々である。

Potonié-Gothan は Taxaceae と Pinaceae とに分つた。即ち前者は毬果の生ぜぬ類であり、後者は之を生ずる類である。氏は前者を又 Podocarpoideae と Taxoideae に分つた。而して前者は所謂マキの類で一般に葉の附き方の粗な且つ大型なもので Taxoideae とは自と別けられ得る樣である。Taxoideae 即ちイチヰの類はマキの類に較べて葉が一般に小型で而も細く鋭尖頭である。此の點でイチヰの類は葉のみの上で寧ろ Pinaceae に近い形態を有する。

Seward は披針形乃至線形の葉を有するもので Taxaceae に比すべきものを Podocarpineae と呼んで Podocarpites, Stachyotaxus, Taxites, Torreyites 等全部を含めてゐる。而して Palissya, Elatocladus 等を別個に取扱ひその所屬を明らかにして居らぬが Taxaceae に入る可き意向である

様だ。

抑もマキと稱せられる屬は現今世界で七十種を數へられ、その大部分は南半球のオーストラリア、馬來、ニュージーランド、南米等に分布して居り、我が國でもその内七種を擧げられてゐる。

Pilger は Engler の自然分類法を更に演繹した學者であるが、氏は Coniferales を Taxaceae, podocarpaceae, Araucariaceae, Cephalotaxaceae, Pinaceae, Taxodiaceae, Cupressaceae に分ち Podocarpaceae（マキ科）を別に獨立させてゐる。而して此の科の特徴とするところは、殆んど雌雄異株、雄花は尋常葉を有する小枝の先に簇生するか又は葉の腋に着生、多くは伸長したる花軸の上に多數の雄蕋を有し、此の雄蕋は二つの胞子嚢を有す、雄蕋の心皮は單一又は相當に多數存在、往々甚だ小型で常に單一の胚珠を有、多くは標準的な心皮上に隆起せる Epimatium と稱せられるものがあつて胚珠に多少或は全々癒着する等である

此の科の内にマキ屬がある。さて玆で化石種の形態であるが、既述の時の圖版は普通の枝から岐れた一小枝で葉の着生狀態は Torreya に似てゐるから、恐らく雌雄異株で、此の寫眞では見られぬが、此の上部延長に當る先端部の葉腋に雌花を着生したであらう。其の他花の構造などについては全く知る由もない。故に考證が全々葉の形態的研究に移されることになる。分類上花が最も大切な準據とされるのは勿論であるが、化石植物ではさうした機會が少なく、殆んど葉の形態的な研究に依られてゐて、その特徴ある脈・緣邊・着生等僅かその一部の表れでも種名決定にまで充分にして、必ずしも輕はずみな方法であると云へない。即ち線形の長い葉で、而も心脈の明瞭なのが殆んど對

生してゐるのは一見松柏類のしかも毬果を生ぜぬ部門に入れられることを肯かれる。

結局 Potonié-Gothan の Taxaceae に屬する位置にあることは誰しも否み難い。併も此の葉幅が廣く、線形で粗に附着してゐる等は現代の Podocarpus に近似する點である。併しこれに於ては葉柄の着くもとから直に一定の葉幅に移つてゐるので全くの線形と云へるが現今の Podocarpus はさうでない、寧ろ大抵が披針形である。

それから化石種 Podocarpites とは色々な點で形が異り、且つ新しい種の如き觀あるは既に述べて置いた。又 Elatocladus そのものを見るに葉が何れの種も細長く、寧ろ松杉に比すべきものと思はれる。因に Potonié-Gothan は Pinaceae に加へてゐる。故に Elatocladus に屬せしむべくもない。葉の着生具合は現今の Torreya に似たるも形態そのものが全く異る。Palaeopodocarpites なる新屬を敢て設けた所以もこゝにある。以上の所論によつて此の植物を分類上 (Potonié-Gothan に依る)

松柏綱　Class Coniferae

イチヰ科　Fam. Taxaceae

マキ亞科　Subfam. Podocarpoideae

古代槇屬　Gen. Palaeopodocarpites

の位置に決定する次第である。

主要文獻

宗田克巳　古代槇について　地球　二六卷　一號（昭・十一）
横山又次郎　古生物學綱要（大・九）
寺崎留吉　日本植物圖譜（照・八）
早田文藏　植物分類學　第一卷（照・八）
A. Engler-K. Prantl: Die natürlichen Pflanzenfamilien, II. 1—4 (1889).
Pilger: in Engler N. Pfl-fam. 2Aufl. 13Band, (1924).
Potonié-Gothan: Lehrbuch der Palaöbotanik, (1921).
Seward: Fossile Plant, IV (1919).

氷河地形の測圖

今村學郎

目次

緒言
測器類
一　通常測器一式
二　輕量測器一式
裝備類
測圖法
結語
文獻

緒言

鹿野忠雄君の圈谷の見取圖と稱するもの（地理學評論　第十卷　昭和九年　六九四頁）を見た人は、誰でも正確な地形圖の必要を痛感した